

館の運営方針	歴史のまち佐倉の生活・文化の向上と、ふるさと佐倉のまちづくりに携わる市民の連帯意識を高めるため、だれもが学習しやすい公民館、集会活動のよりどころとなる公民館、親睦を深める場となる公民館として生涯学習のねらいを達成すべく、社会教育活動の中心施設としてその役割を果たすことに努める。
ジャンルの目標	
公民館利用団体の活動を支援しながら、団体による地域貢献活動ができる機会を提供し、地域活動に積極的にいかかわろうとする意欲の向上を図る。また、団体相互の連携促進を図り、自立と活動の活性化を図る。	

★個別事業評価一覧

No.	事業名	事業の内容
①	中央公民館利用グループ懇談会	利用者団体の交流を図り、公民館活動のあり方について、職員も交えて懇談する。また、当館独自の定期利用団体制度の調整を行う。
②	調理室懇談会	定期的に調理目的で使用する団体が協働で清掃し、職員も交えて意見交換を行う。調理室の効果的利用方法を考えると同時に、懇談を通じて利用サークル間の交流を図る。
③	ボランティア団体派遣事業	佐倉にまつわる民話を題材とした語りを行うグループ「さくらっ古」と「佐倉こどもかるた子都手留会」を市内小学校等に派遣し、民話や佐倉こどもかるたを通じて郷土愛を育む。
④	佐倉地区子ども会育成会連絡協議会	子ども会の育成者を養成し、子ども会同士の交流を図る。佐倉市子ども会育成連盟主催の中央交流フェスティバル等に参加する。(現在、休会中。千葉県子ども安全協会への加入案内のみ行っている。)

★ジャンル総合評価

個別事業における、ねらい・運営方法・学習テーマ・対象者・講師・資料・広報等、事業全般		
企画	企画段階での課題と解決策	<b>A</b> A: 各個別事業の想定課題は正しかった。 B: 各個別事業の想定課題はまあ正しかった。 C: 個別事業の想定課題が違っていたところがある。 i: 途中で変更した。 ii: そのまま進めた。
実施	実施しての課題と解決策	<b>B</b> A: 各個別事業の想定課題の解決は進んだ。 B: 各個別事業の想定課題は解決はまあ進んだ。 C: 各個別事業の想定課題とは別の課題が出た。 i: 別の方向に進めた。 ii: そのまま進めた。
点検	点検しての課題と展望策	利用団体懇談会は、当館独自の定期利用団体制度の調整機能を有しており、今後この制度を継続する上では必須である。
改善	次年度への課題と展望策	<b>B</b> A: 事業拡大。 B: 現状規模での継続。 C: 事業縮小。 D: 目的達成により終了。 E: 統合・改善・その他 ( )

総合評価		成果
<b>B</b>	事業規模 A: 適切で成果が得られている。 B: 課題あり、成果が得られている。 C: 課題あり、成果があまりない。 D: 成果が得られていない。 E: 現段階では判断できない。	利用グループ懇談会・調理室懇談会の開催は、利用団体との意見交換を行うことができ、円滑な管理運営につながった。
		課題 利用グループ懇談会・調理室懇談会は、代表者の参加であり、すべてグループが参加していない。そのため条例・規則・基準等で定められたことが会員に伝達されていないこともある。ボランティア団体派遣事業に参加する2団体とも市民カレッジ卒業生の団体であるが、高齢化が進み、新規加入がない。

ジャンル	団体育成
事例発表の事業	団体育成事業

★公民館運営審議委員意見

委員①	★ジャンルについて 適正に事業を実施していると考える。
総合評価 <b>B</b>	★事例発表の事業について 適切に団体間の調整や育成が行われていると考える。

委員②	★ジャンルについて 市全体の市民活動が活性化するために、団体育成を図ることはとても意義のあることと考える。しかし、実際にこれだけ多くの団体の自立と活性化を促すことはとても労力が必要であると思います。今後も団体との連携を図りながら、この事業を継続していただきたい。
総合評価 <b>B</b>	★事例発表の事業について (発表は聞いていませんので的外れかも知れませんが) 子ども会育成連絡協議会は、少子化や女性の就労以外に、各自治会の抱える様々な要因があるように感じます。目標達成のためにも課題についてはその分析を行い、事業の継続について検討していくことが必要であると考えます。

委員③		総合評価	D	<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と関わる利用団体の育成という視点がよい。</li> <li>・グループ懇親会は、「団体育成」というより、各利用施設や部屋の割り当てなどがメインとなっていないか。育成の視点が欠如しているように感じる。</li> </ul> <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンルのねらいである「地域と関わる利用団体の育成」からすると、評価Bとなっていたボランティア団体派遣事業の評価を上げていく必要がある。</li> <li>・利用団体に清掃をお願いすることは、マナー向上にもつながるので、よい試みである。</li> </ul>

委員④		総合評価	A	<p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>

委員⑤		総合評価	A	<p>★ジャンルについて</p> <p>高齢化や担い手不足により活動が危ぶまれる団体継続に大きく寄与できるものとして期待できる。</p> <p>★事例発表の事業について</p> <p>懇談会は各館開催していると思うが、公民館と各団体との意見交換ではなく抱えている不安や困りごとなどを団体間で解決・情報交換をする事で活動が活発になると思う。限られた時間とは思うが、話し合いの場から公民館利用マナーについても考えてもらえるのではないかと。</p>

委員⑥		総合評価	B	<p>各館ともパワーポイントを用い、発表内容が良く整理されていて、聞きやすく分かりやすかった。</p> <p>★ジャンルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用グループ懇談会について</li> </ul> <p>妻がこれまで何度か利用団体の代表として懇談会に参加させて貰っているが、この会はありがたいと言っている。</p> <p>★事例発表の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さくらっ古」の活動をありがたく思いながら、その平均年齢の高さに驚いた。カレッジで卒業生の全体総会など企画して活動継続のための手を考えて戴けないものだろうか。</li> </ul>

委員⑦		総合評価	B	<p>★ジャンルについて</p> <p>4事業が対象とあるが、施設利用者の二つの団体を除けば、休眠中の「子ども会」以外には「語りべの会」しか残らない。施設利用者の二つの団体は、管理上、重要な仕組みだと思うが、どちらかと言えば、育成団体というよりは、施設利用団体に対する「利用の心得」の範疇ではないだろうか。公民館が育成する団体の必須条件は、「語りべの会」のように、その団体が社会活動をするという点で譲れないと考えている。</p> <p>★事例発表の事業について</p> <p>市民カレッジから卒業生の自主的活動である「語りべの会」の活動は、在校生、あるいは今後の入学生にとってのモデル的存在として継続して欲しい。第2、第3の「語りべの会」立ち上げの後押しをするのが、公民館の使命の一つではないかと思う。</p>

委員⑧		総合評価	B	<p>★ジャンルについて</p> <p>公民館利用団体の活動を支援し、地域貢献活動機会の提供と団体相互の連携をし、活性化を図る目的であるが、佐倉地区子ども会育成会連絡協議会については、活動・機能の発揮がされていない。各地区の子ども会の運営状況を考慮し、当協議会の必要性を含め諸種の面から検討を要します。また、調理室使用に当たり、政府からの「新型コロナウイルス」の感染拡大防止策の内容を現段階では活かされることを要望します。</p> <p>★事例発表の事業について</p> <p>当館独自の「利用グループ懇談会」は、当館使用に当たっての総括的事業であり運営上に重要視される。また、「調理室懇談会」においても、意見交換会の開催により共通認識を持ち利用しやすくなった効果は大である。「ボランティア団体派遣事業」も学校との連携の基、高い実績をあげている。今後の継続を望みます。</p>

委員⑨		総合評価	B	<p>★ジャンルについて</p> <p>施設は老朽化しているが、中央公民館は佐倉市における生涯学習の拠点的な施設であり、各利用団体が円滑に利用するために話し合う機会を公民館側から積極的に作っていくことは大切である。しかし、「佐子連」が休会中なのは残念である。</p> <p>※ 朗吟の音声は廊下や各部屋に響いて他の講座に迷惑なので、音楽をする部屋には防音設備の設置を検討されたい。</p> <p>★事例発表の事業について</p> <p>上記と同じです。</p>

委員⑩		総合評価	A	<p>★ジャンルについて</p> <p>市内最多の利用者がある公民館として、利用団体と懇談会で意見交換することは、公民館の適正な運営にかかわることであり、必要なことで今後も毎年行うべきだと思います。また、小学校へのボランティア団体の派遣も継続して実施していただきたい。</p> <p>★事例発表の事業について</p> <p>「さくらっ古」及び「子都手留会」の両団体とも、佐倉に関わる話を題材にしており、小学生が佐倉学の知識を深められる形になっていると思います。団員の高齢化が心配ですが今後も派遣を続けていただきたい。</p> <p>グループ懇談会は利用団体とのコミュニケーション育成の場でもあり、調理室懇談会は調理道具類の利用規定、衛生面上の清掃などについて、利用団体が共通の認識を持つために必要なことだと思います。</p>

委員⑪		<p>★ジャンルについて 「佐倉民話を読むボランティア派遣事業」「佐倉こどもかるた普及派遣事業」は、地域の歴史や伝承を後世に残すためにも、継続して欲しい事業です。 民話や慣習を、「かるた」を通して、郷土愛を育むことが出来ます。</p> <p>★事例発表の事業について 中央公民館団体育成事業では、定期利用団体や不定期利用団体の活動が競合しないよう、受益者負担・公平性に基き、話し合いや連絡を密にし、活動が円滑に行われるように、その支援を行っている。</p>
総合評価	A	

委員⑫		<p>★ジャンルについて 「団体育成」…公民館利用団体の活動を支援しながら、地域活動に積極的な意欲の向上を図る。自立と活動の活性化を図る。いいですね。</p> <p>★事例発表の事業について 「団体育成事業2019」…中央公民館利用グループ懇談会、調理室懇談会、意見交換や親睦を図れる、長く続くでしょう。</p>
総合評価	A	

委員⑬		<p>★ジャンルについて ・①(利用グループ懇談会)・②(調理室講談会)はいろいろな意見・要望が出てくるから、公民館に参考になることもあり、継続が望ましい。 ・③(ボランティア団体派遣事業)の1(さくらっ古)・2(子都手留会)「佐倉学」を小学生の頃より学べるのはよいことである。申込み待ちは残念でPR方法をより考えられては。</p> <p>★事例発表の事業について ③の1「語りべの会さくらっ古」は平成30年度は10校で1,095人の生徒が受講していたとは驚きである。大いに続けてほしい。</p>
総合評価	A	

委員⑭		<p>★ジャンルについて 佐倉市の中央公民館としての立ち位置から、他の地域の公民館とは違った役割があるが、毎年の団体育成事業は継続していく点が多々あるが、ややもするとマンネリ化に陥る事が多い。いろいろな意見を吸収しながら、アイデアをだして毎年更新していただければと思う。</p> <p>★事例発表の事業について 中央公民館主催の団体育成事業の概要がよく理解できました。特にボランティア団体派遣事業の今後の課題にあるように、団員の高齢化、移動手段の困難さ等は喫緊の課題だと思う。難しい面あるが対応を検討願いたい。</p>
総合評価	A	

委員⑮		<p>★ジャンルについて ○今や公民館の施設利用が市民に与える生きがい計り知れないものがあります。その利用団体が、自覚をもちつつ、他団体との共存を図ろうとする姿勢を持てるように育てることは、利用団体が多くなればなるほど大事なことだと思います。日常的には個々の団体が公民館に要望を出していることあると思いますが、共通理解を図ることで効率よく運営できると思います。</p> <p>★事例発表の事業について ○様々なジャンルの利用形態がある中で、グループ懇談会を取りあげます。この懇談会では公民館からのルール等の説明と協力要請に対して、どのような意見や要望が出ているのか、またそれに対してどのように回答しているのか知りたいです。今後、各団体の構成が高齢化していくことが必須で課題でもあると思います。</p>
総合評価	B	